

鶴岡ロータリークラブ会報

830

1975-11-18 No.21

鶴岡ロータリークラブ 創立 昭34.6.9 承認 昭34.6.27 353地区
例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや
例会日 毎週火曜日 午後 12.30～1.30
事務局 鶴岡市馬場町 鶴岡商工会議所内 電 0235(22)5775
会長 佐藤 忠 幹事 吉野 敏

◆ 点 鐘

◆ ロータリーリング（それでこそロータリー）

◆ ビジターゲスト紹介

◆ 会長報告 —— 鈴木弥一郎副会長

表彰 12年間皆出席 阿部公一君

- ◆ 会員増強について会員の皆様の御協力を乞う
- ◆ 指名委員会に謝辞

◆ 幹事報告 —— 中江亮副幹事

変更のお知らせ

大阪南RC 12月2日（火）を12月4日（木）12:～に変更

山形西RC 12月8日（月）を12月7日（日）12:30～に変更

山形北RC 11月27日（木）を11月30日（日）17:00～ホテルオーヌマに変更

立川RC 11月27日（木）、12月18日（木）の時間を午後0時から8時迄に変更

福島RC 事務所移転先は福島市大町7番17号;TEL (0245) 21-1170です

◆ 会員スピーチ（海外旅行談）……玉城俊一君

◆ 委員会報告

ユネスコについて……阿部襄君

会員増強について……張紹淵君

出席報告……小松広穂君

◆ 点 鐘

TO DIGNIFY THE HUMAN BEING 人間に威信を！

海外旅行談

玉城俊一

玉城でございます。先月下旬鶴岡西RCに行っておりましたら、新潟プログラム委員から来月中旬に、この間海外に行ってきたのだからその話と何か鶴岡の悪口を話してくれとのお話がありました。8月に漸くロータリーに入会させていただきました新米でございますので素直にお受けいたしました。鶴岡の悪口はチョット申し上げかねます。あまり悪口を申しますと預金が減りまして生活に係り合いがありますので、この辺はごカンベンをお願いいたします。実は先週日本橋東ロータリーにメークアップに参りましたら、突然お前が一番遠距離から来た Visiter だから短時間のスピーチでよいか何か挨拶をしるとのことで食事もそこそこで一席鶴岡ロータリーCの紹介と出羽三山、海あり山あり、米あり、酒あり、温泉あり自然も公害皆無一 Discover Japan と話をして参りましたら兜町や堀留のドブ臭い連中がうらやましがって居りました。私は鶴岡をこの様にほめて居りますので、うそだと思ったら、日本橋東ロータリーCに照会いただければ間違いございません。

そこで今日はいかの間見て参りました海外の様子を中心にお話してみたいと思います。

今回の視察の目的は Manpower Development が主体で、いわゆる限られた従業員を如何に有効に活用するか、とか、人材をどうやって開発するか、ということが主体でしたので、どちらかといえばその方面の人々に多く会って話を聞いて来たわけでございますが、当然経済問題も入って参りますので断片的になって恐縮ですが、あれこれと思いつくままお話をしてみたいと思います。

先ず回りました経路をご披露いたしますとハワイからサンフランシスコ、ワシントン、パッハロー、ニューヨーク、ロンドン、パリ、フランクフルト、チューリッヒ、ミラノ、ローマ帰りは南回りでアテネ、ベールート、テヘラン、ニューデリー、バンコックを経由して約1カ月弱かけて地球の一番距離の長いところを回って参りました。帰りにはテヘランでゼンボが着陸の際パンクする等のハプニングもありました。西洋史はギリシャ、ローマから始まりヨーロッパ、イギリスを通り、大西洋を渡ってアメリカの東部から西部となるわけですから、歴史の逆回りをやって来たようなものになります。訪問先はメーカー、銀行、政府機関、研究所を含めて14社ばかり訪問して参りました。

まあ概括して申し上げますと、現在西側諸国は一樣に不況、インフレ、通貨、石油等の共通の問題について悩んでいることは、すでに皆様ご承知のことではありますが、アメリカではどの経営者に聞いて見ましても昨年来戦後最大の不況とインフレに見舞われましたが、50年度の第一4半期を転機として、本年度後半にかけて景気の回復には、かなりの自信をもっておるように見受けられました。事実経済の諸指標を見てみましても確かに景気回復は着実に進行しているように思われます。然しヨーロッパ諸国は、せいぜい来年の後半から更来年にかけて景気の回復が期待出来るという程度の回答しか、はね返って来なかったのが実情であります。

各国とも国柄によって国内事情は大いに異っておりますし、夫々の国が何れも深刻な問題を抱えておまして、他国では窺い知れない様な、又越えることの出来ない様な一線があるように思われました。

その内若干の例を挙げてお話しいたしますと、先づアメリカですが、流石資本主義の牙城にふさわしく私共が見た企業は夫々一大王国を形成しているようなワールド・エンタプライズと申しましょうか、外形内容とも壮大なもので経営陣、管理者層ともに人材の層が厚く、夫々の人々が真によく勉強もしておりますし、その働き振りが立派で、又それぞれがプロ意識に徹底

しておりました。

アメリカのプロ意識の徹底一でですが、これは日本の終身雇用制との違いというか日本とアメリカの文化の違いといいたいでしょうか、その辺のところ根ざしているのではないかと思います。

アメリカ人は学校で半導体を習ったら一生それをやり、会社でもそれ専門に進むわけです。従って本当のプロが出る、別に頭がよいのでもないといっておりました。俺はこの仕事を30年やっているのだと胸をはり、せまい分野で深くやるような社会の組織になっているようです。

これが各会社の人事政策の根底になっているように受けとられました。

そこでアメリカと日本の企業の比較をやってみました

米国では

個人が一番重要で、常に個人中心で必要性が考えられる。

米国はあくまで個人主義

日本では

個人は小さな一部にすぎず、お互いに依存し乍ら生きて行く

日本は全体の中の個人

この辺にアメリカと日本の文明の差があるのではないか？

従而

米国は

ビヘビアーは競争的

アメリカは欲望が強く自己を全面に押し出す傾向がある

日本は

協調的でGroupを指向する

日本の場合にはどちらかといえば控え目である

以上の様な結果として

米国は決定は早い、実行には時間がかかる 日本は決定迄は時間はかかるが実行は早い 以上の様なことがアメリカと日本の違いの様にも受けとられました。

この様な思想が人事政策の根底をなしている様ですが、ここに面白い話がありますのでご披露しておきますが、皆様ご存知だと思いますがカルフォルニアにフェアチャイルド社があります。（戦事中B29のカメラを作った軍需会社ですが今は半導体を主体にやり日本のT・D・Kと提携している会社）（I・C 集積回路全米第3位）といと会社の話ですが、この創立者のフェアチャイルド氏は、1960～68年の間不況で四苦八苦したわけです。そこで有能な社長を迎えようと、モンローアという会社（これも有名な会社ですが）このセミコンダクターのDr. ホーガンというのを目をつけて交渉に行ったわけです。先づ給料は6万弗～8万弗位でどうだと交渉したそうです。ところが簡単にはO・Kと云わない。そこで条件はどうだと聞いたところ

○給料12万弗

○本社をカリフォルニアにうつせ…女房がニューヨークに住むのを好まない

○株50万株よこせ

○重役は全部俺にきめさせろ

○7人の管理職をつれて行くがよいか、と。まことに個人が強く押し出されていることがわかります。

これでO・Kになってそして乗込んで来て、不況期に設備投資をしてそれが70年代の好況に当って息を吹き返した、ということです。一方、引っこ抜かれたモンローアは7人も人を連れて行かれて秘密が皆んな解ってしまうとカンカンになり裁判になったが、結局7人の士の勝ちに終わったそうです。そして今の社長は7人の士の中で一番若手のイギリス生れの36才のケミストが社長で朝は8時から夜は7時～8時迄ハードスケジュールをこなして日本にとんで来るのもエコノミークラスに乗って来るということです。

まあ社長業はタレントさん野球のジョンソンと同じで業績が悪いとすぐ首になる、といっておりました。日本では社長さんは偉いことになっておりますが、アメリカでは社長より給料の高い研究員がザラにおります。皆様、アメリカにいらっしゃる時は名刺にプレジデント即ち社長とお書きにならないでチャーマンと書かれた方が大切にされるのではないかと思いますので一言申し添えておきます。

こんな話をしてくれた部長に貴方は何年この会社にいるんだと聞いて見たら1年半だといもう一人の研修所の所長は当社に2年で、前はパンアメリカンにいたといっており、もう10年も20年もこの会社にいた様な大きな顔をして自信に満ちて仕事をしているのには、あきれ返った様なわけです。この辺がまさに文明の違いと云うのではなからうかと思いました。

他のどの会社に参加しても管理職の人々その中にはドイツ人も居り、日本人もおり、黒人もおりましたが、何れも生々とした眼の輝きがあり、生気に満ちている感じがいたしました。ただ、ブルーカラーは男子、女子共、労働の質は日本とは比べものにならない位悪いし、定着率もよくなく従而、熟練度も低い様子でした。これも例ですが、或会社の女子従業員の話でピンセット良（青ランプ）不良（赤ランプ）選別するだけのこと、日本では100%うまくいっていたのに米国では20~30%不良品混入がある。これは女子の作業中のオジャペリと夜深しによる不注意が原因とのことでした。

アメリカのコンピューターが発達したのは人間に頼れないから不得已機械に頼った結果こうなったのだと極論しておりました。

今米国では労働者の定着率を高めるため日本の経営を見なおしている、とのことですが、特に松下がシカゴでテレビ会社を買取り、その女子従業員の欠勤率が高い。そこで病欠（これはズル休みですが）そこへ花をもって訪問1~3回の繰り返しでかなり欠勤率が減少したといっておりました。こう云う面の日本の人間関係（Human Relation）が見なおされて来ている様です。

兎に角I・B・Mモントローラー、テキサス、インストルメント、コダック、フェアチャイルド何れも労働組合はなく、組合があると生産性が20%ダウネスするから、それより20%よけい払ってやった方がよいという考え方です。若しその20%が払えなければレイオフすればいいではないか、という思想が底流をなしていた様に思われます。まことに経営者にとっては結構なことであらやましい話です。

又、銀行を含めた広義のサービス業、これは私共はアメリカに学ぶべき処は皆無だと思えました。ホテルその他一般サービス業務は日本は肌の細かい配慮で恐らく世界一であるとの自信をもってよいのではないかと思います。

又、アメリカの代表的大都会ニューヨークの話ですが、これはもう皆さんご承知の通り130億ドルの負債をかかえ、借金の利払いも出来なくなり破産寸前ではありますが、原因は放漫な福祉支出と人件費のupにありますし、反面税金が高くなるので納税負担者が他所に逃げてしまうので税収が減少する、という悪循環から来たものです。

街の道路中がゴミだらけで、その不潔なことは世界一でしょう。私も自分の店の前位掃除したらよさそうなものだ、と申しましたら、そんなことをしたら市の清掃組合から俺の仕事をとっては困るとクレームがつくし、そのくせ連中はサポータージュばかりしているんだからどうしようもないといっておりました。又、今回天皇陛下の訪米で少年達の合唱を聞かれ素晴らしい公園だとはめられたセントラルパークは夜は生命にかかわるので立入ることは出来ません。つい最近ここで早朝ランニングを永年やっていた老人が何の理由もなしに殺されております。又この北側の道路一つ隔てた街はいわゆる警察力も及ばないハーレム地区で、ここは元白人の高級マンション地帯でしたが黒人が入り込んで来て今では黒人だけで41万人が住んでおり警察も

黒人だけ、白人は一步も踏入れることの出来ない特殊地帯で、聞きしにまさる無法地帯の様相を呈しておりました。又、マンハッタンの南東の一角の街ですが、ここは白人が多かったのですが、アル中の街があり、朝から患者が歩道に鮪をならべた様に廢墟の街にウツロな目をしてゴロゴロしている様子はスザマジいとしか言いようのない光景でした。(マポートルカン)

人種問題を含めた、アメリカの病める面を見せられた感じがいたしました。然し先に申し上げました、アメリカの企業の偉大さ、管理層の勤勉さと又その意欲、或いは大陸をジェット機で横断するのに5時間もかかる広大で豊かな国土、この上に立つアメリカの底知れない力と可能性の奥行の深さに無気味さを感じたのが事実であります。

次にイギリスですが、この3、4カ月前に漸く所得政策を実行して、インフレ対策に取組んだ状況で一番立ちおけていると思われました。

イギリスの立ちおくれは戦後組合を甘やかし過ぎたことと、英国の企業家は、企業意欲がゼロで積極的な企業家精神を完全に失ってしまった上に、旧態依然たる階級制度が根強く社会にはびこっていて、人間が皆小さな幸せを乞い願っているところに、おくれをとった大きな原因があると思います。

イギリスとフランスは18世紀から19世紀にかけて完全社会が出来上ってしまっ、一応完結国家となってしまうのかもしれない。その意味では日本もアメリカも不完全社会といえるかもしれませんが、まだもろもろの可能性はあると言えるのではないかと思います。(アイルランド爆弾事件頻発、治安悪い。長居は無用と)

一方西ドイツですが朝早くから建設の槌の音が響いていたのはここだけでした。ヨーロッパ的封建性の影は見られないでもありませんが、勤勉さと素朴なバイタリティには脅威を感じました。

私は、戦後西ドイツの経済がうまく立直った最大の原因は何か?と何れの経営者に聞いてみましたが、それは組合が経営をよく研究し経営とは如何なるものかを理解し、ストをしないことだとの答が返って来ましたが、労使の間のうまく行かない英国(ヤマネコスト)と対象的で誠にもっともなことだと痛感いたしました。

スイス、これも又、労使間はスポーツマンシップで解決はつくし、2度の大戦にも加わらず政治が安定し、ここ何10年間世界のレベルで言う貧乏人は皆無であるといっており、兎に角豊かであるからといっておりますが……スイス富士 B/Kの総支配人の家の奥さんの話で、ご近所の通いのお手つだいさんが冬になるとミンクのコートを着て来る(私はもっていない)と言って悲観しておりましたが……それ程豊かなのでしょう。然しここでもスイスエアーは20年ぶりに大赤字になったと大さわぎをしていました。きたない仕事は外人労務者にやらせていたがこれからは自分達でやらなければならないと云っております。

最後にイタリアですが、石油危機以来破産寸前であったわけですが、どうやら国際収支も改善され西独からの借金も一部返済はしたものの、はげしい引締めからの不況で目下四苦八苦というところ。北部地方の勤労を尊ぶ連中は大きな危機感をもっていました、大部分の人間は全く意欲がなくイタリア人の身上は喰って、飲んで、歌って、寝ることであり、人より兎に角楽をすることだというのでは、全く何をか云わんやであります。私の行きましたアロハローメオでは、人事担当の Dr. が一年のうち実働180日も働かないのでは、どうしようもないと歎いておりました。日本に人事部長のあきがあったら世話してくれないかと云われて大笑いをしました。帰りは南回りで帰って来たわけですが、ジェット機で何時間飛んでも草木の一本もない荒涼として中東の砂漠地帯や、又一度見舞われると引くことを知らない洪水が広くおおいつくしたパキスタン、インド、ビルマ等もかい間見る機会もありましたが、大変きびしい土地

もあるものだと痛感いたしました。

外地を回って来ると今更日本を見なおすとよく言われますが、まさにその通りで、国土がせまい、人間が多い、資源もないと言われている日本も単一の民族と単一の言語で統一され、教育程度も高く機会は均等であるし、失われたとはいえまだまだ緑と自然とおいしい水があるし貧富の差も海外のそれよりは少なく、国民は活力に満ちて、勤勉であり、街も清潔な素晴らしい良い国だということを再発見したのも事実でございます。

何んとかこの国をより良い国にして後々の人々に残して行ってやりたいものだと痛感いたしました。 終わります。

出席報告

本日の出席	会員数 70名 出席数 49名 出席率 70.00%	欠席者	石黒君、五十嵐(三)君、五十嵐(伊)君、市川君、風間君、小花君、三井(賢)君、三浦君、森田君、中野(清)君、齋藤(栄)君、齋藤(信)君、佐藤(伊)君、佐藤(忠)君、笹原君、高橋(正)君、佐藤(宇)君、上野(三)君、鷲田君、吉野君、内山君
前回の出席	前回出席率 69.01% 修正出席数 65名 確定出席率 91.55%	マークアップ	玉城君—東京日本橋東RC 風間君—新庄RC 張、佐藤(友)—温海RC 阿部(公)君、半田君、五十嵐(三)君、板垣君 三井(徹)君、三井(健)君、岩網君、菅原(啓)君、菅君、富樫君、清水君—鶴岡西RC 山本君—外国RC
ビジター	奥村知介君—習志野RC 上野十九治君、加賀山隆土君—鶴岡西RC		